

CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観	
建物名称	コメリHC本路店(本館)		階数	地上1F
建設地	熊本県天草市亀場町食場字長フケ805-1 外13筆		構造	S造
用途地域	都市計画区域外		平均居住人員	20人
気候区分	地域区分IV		年間使用時間	4,500時間/年
建物用途	物販店		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年9月	予定	評価の実施日	2011年8月20日
敷地面積	8,455 m ²		作成者	
建築面積	3,659 m ²		確認日	2011年9月21日
延床面積	3,621 m ²		確認者	

外観パース等
外観図の貼り付けは、
【外観図】シートへ貼り付けてください。

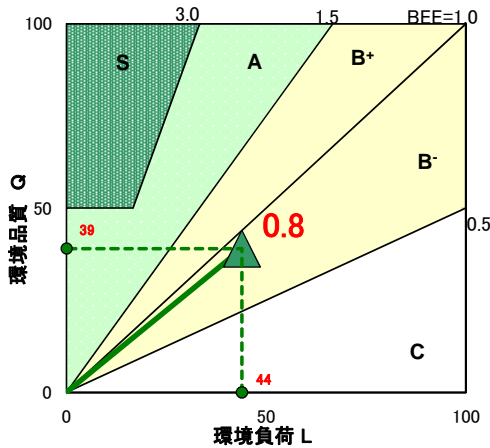
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 0.8

$$\text{BEE(環境効率)} = \frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$$



■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

75%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

70

評価点

- 【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進
- 【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現
- 【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全
- 【重点事項4】 循環型社会の実現

86.2
58.7
46.4
71.2

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

■ 使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	コメリHC本渡店(本館)	階数	地上1F
建設地	熊本県天草市亀場町食塩字長フケ805-1 外13番	構造	S造
用途地域	都市計画区域外	平均居住人員	20人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,500時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年9月 予定	評価の実施日	2011年8月20日
敷地面積	8,455 m ²	作成者	
建築面積	3,659 m ²	確認日	2011年9月21日
延床面積	3,621 m ²	確認者	

外観/パース等
外観図の貼り付けは、
【外観図】シートへ貼り付けしてください。

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 2.5**

Q1 室内環境 **Q1のスコア = 2.8**

Q2 サービス性能 **Q2のスコア = 3.0**

Q3 室外環境(敷地内) **Q3のスコア = 1.7**

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.2**

LR1 エネルギー **LR1のスコア = 3.5**

LR2 資源・マテリアル **LR2のスコア = 2.8**

LR3 敷地外環境 **LR3のスコア = 3.2**

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 **評価点 = 70**

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 86	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 59
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 46	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 71

重点事項の評価(レーダーチャート)

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE[®] 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

外部負荷を低減する為に開口部は必要最低限とした。
外壁の色、配置、夜間の照明・騒音など、近隣への迷惑、公害等が生じないように配慮した。

Q1 室内環境

建築基準法規制対象外となる建築材料を採用し、良好な空気環境に努めた。

Q2 サービス性能

売り場の天井高さを高くし、売り場の仕切壁を減らすことで、開放的でゆとりのある空間とした。

Q3 室外環境（敷地内）

防犯性に配慮した環境作りに努めた。

LR1 エネルギー

エネルギー効率の良い機器の採用をし、エネルギー使用の効率化を図った。

LR2 資源・マテリアル

躯体と仕上げが容易に分別可能。

LR3 敷地外環境

夜間照明は周辺地域に配慮した。

その他

注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
 コメリHC本渡店(本館)

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.5
Q1 室内環境						2.8
1 音環境		1.8	0.15	-	-	1.8
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		1.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		1.0	1.00	3.0	-	
2 界壁遮音性能		3.0	-	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		1.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境		2.4	0.35	-	-	2.4
2.1 室温制御		2.6	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.50	3.0	-	
2 負荷変動・遅延制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		1.0	0.17	3.0	-	
4 ゾーン別制御性		3.0	0.33	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 種別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		3.0	0.25	-	-	3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.50	-	-	
1 昼光率		3.0	-	3.0	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		3.0	1.00	3.0	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御		3.0	-	3.0	-	
3 眩り込み対策		-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	-	3.0	-	
3.4 照明制御		3.0	0.50	3.0	-	
4 空気質環境		3.8	0.25	-	-	3.8
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆の積極的な採用	5.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		2.5	0.30	-	-	
1 換気量	換気回数0.6を確保	4.0	0.50	3.0	-	
2 自然換気性能		3.0	-	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	3.0	-	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		1.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	売り場全体が禁煙 事務エリアに分煙設備あり	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.0
1 機能性		2.8	0.40	-	-	2.8
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		2.3	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	売り場天井高:4.5m	5.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		1.0	0.33	-	-	
3 内装計画		1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.9	0.31	-	-	2.9
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			2.6	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-
3	電気設備		1.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.5	0.29	-	3.5
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-
1	階高のゆとり	軒高:7m	5.0	0.60	3.0	-
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.11	4.0	0.40	3.0	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-
3.3 設備の更新性			3.1	0.38	-	-
1	空調配管の更新性	天井スペースが確保されている	4.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		1.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	3.5
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		高効率空調の採用	4.7	0.30	-	4.7
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)		ERR=30.3%	4.0	-	-	-
集合住宅の評価			3.0	-	-	-
4 効率的運用			3.0	0.20	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	2.8
1 水資源保護			2.2	0.15	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.63	-	2.7
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.21	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.21	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み	躯体と仕上げが容易に分別可能	4.0	0.25	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68	-	-
1	消火剤	粉末(ABC)消火剤の使用	4.0	0.33	-	-
2	発泡剤(断熱材等)	グラスウールの使用	5.0	0.33	-	-
3	冷媒		3.0	0.33	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		省エネ設備の導入	3.9	0.33	-	3.9
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	3.1
2.1	大気汚染防止	燃焼機器使用なし	5.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減	調整池の設置	4.0	0.25	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-
3	交通負荷抑制	自転車置き場の確保、駐車スペース・駐車施設の確保	5.0	0.25	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	0.33	-	-
2	振動		3.0	0.33	-	-
3	悪臭		3.0	0.33	-	-
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制			1.6	0.40	-	-
1	風害の抑制		1.0	0.70	-	-
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	初期照度補正機能の採用	5.0	0.70	-	-
2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-

熊本県重点評価結果スコアシート 実施設計段階

建物名称 **コメリHC本渡店(本館)**

■評価ソフト: CASBEE-Ncb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		69.7
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				86.2	0.40	34.48
Q1-2.1.3	外皮性能	1.0	0.08			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.07			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.00			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.7	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				58.7	0.20	11.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				46.4	0.20	9.28
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.29			
LR2-1.1	節水	1.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				71.2	0.20	14.24
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数